カトリック 福岡教区報

宮原良治司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　森山信三
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

年頭のあいさつ

再度「司祭召命の育成」に取り組みましょう！

主イエス・キリストからの恵みと平和が、新しい年も皆様の上に豊かにありますように！

昨年の取り組みに感謝

昨年、福岡教区民は「司祭召命の育成」を最優先課題として全力で取り組みました。

全教区民が一丸となってこの課題にご尽力下さったことに心から敬意と感謝を申し上げます。心を一つにしたこのような努力の積み重ねが、福岡教区の将来に明るい希望をもたらすと確信しています。

今年の目標

新しい年の最優先課題も、同じ「司祭召命の育成」を繰り返すことに決定しました。

これは司祭評議員からの一致した答申でもあります。当然のことではありますが、「司祭召命の育成」の取り組みは一年だけで終わるようなものではありません。神の民に継続的かつ恒常的に求められる大事な任務であり、とりわけ福岡教区にとっては緊急かつ重大な課題です。幸いに、ベネディクト16世教皇様は昨年から今年にかけて「司祭年」を制定して下さっています。教皇様のこのような計らいは、「司祭召命の育成」に励んでいる福岡教区民にとって、神様からの特別な「み摂理」を感じます。

司祭団の取り組み

司祭召命の特効薬は、現場で活躍している司祭自身の輝きと魅力の中にあると言っても決して過言ではないでしょう。司祭が召命の育成に本気で取り組むなら、自分の使命と役割に誠実に向かい合う必要があり、司祭らしい生活と役務のあり方に前向きになれるからです。その取り組みは、自分の司祭職のアイデンティティを深め、高め、広げ、豊かにし、司祭としての専門的な資質の向上につながるはずです。教皇様が「司祭年」で司祭たちに願って止まないのは、まさに司祭自身のこのような姿勢と自覚の再認識です。司祭団の皆様、「司祭年」と「司祭召命の育成」の取り組みを、強制的な義務としてではなく、神様に招かれて派遣されている者の恵みとして喜びの中で精一杯励みましょう。私たちが自分の司祭職を嬉々として生きるなら、それは必ず若者を初め信徒の喜びと誇りにもなるはずです。そして、それが司祭召命の肥沃な苗床にもなるはずです。

信徒の取り組み

信徒の皆様、今年は特に司祭団との意思の疎通を大切にするように心掛けて下さい。

相互の信頼と尊敬を伴う意思疎通の充実は、教会共同体を更に豊かにし活性化させるからです。先月の教区報で報じられたように、司祭団は「司祭召命の育成」への対応の中でも次の2項目に力を入れて重点的に取り組むことにしています。①「司祭は『良き牧者キリスト』の心で信徒と共に歩み、彼らに寄り添う姿勢を大切にする。」②「司祭と信徒との間の相互の意思疎通を大切にし、叙階に基づく司祭の任務と信徒独自の役割の相互関係を明確にした上での連携と充実を促進する。」この目標が実現されて司祭と信徒の協力関係が強化されるなら、更に生き生きとした教会共同体が構築されるでしょう。そのためにも、各小教区、地区、教区レベルでの目標実現のための具体的な方法や手段を検討する必要があります。

信徒の主な活動の場所は家庭と職場と地域社会です。特に、家庭の聖化は信徒の特権分野です。それぞれの家庭が神様との出会いの場、神様との交わりを深める場となり、家庭教会が実現されるように励みましょう。いつも神様が家庭の中心にいて、その慈愛と平和が家庭に満ち溢れるように心掛けて下さい。

奉献生活者の皆様、皆様は教会の聖性と使命に参与しています。皆様の存在と活動は教会の豊かさです。その存在意義は教会においても現代社会においてもますます大きくなっています。その必要性と重要性は現代の若者にも必ず伝わり、受け入れられると確信しています。

奉献生活者の取り組み

そのために、恐れず躊躇せず、勇気と希望と忍耐をもって、彼らに適合した新しい伝達手段、新しい表現方法、新たな熱意を駆使し、知恵を出し合っていきましょう。

召命の歩みを始めて下さるのは全能の神様です。それを支え、導き、完成して下さるのも神様です。「救いのみ業」が世の終わりまで続くことを望まれ、そのための協力者を必要となさっている主イエス・キリストが、福岡教区にも多くの奉仕者を配慮して下さるように、司祭の母である聖母マリアのお取り次ぎを願いながら、信頼と希望をもって「司祭召命の育成」に励みましょう。

最後に

神様の望みと期待に応えようとする私たちの素朴で誠実な努力の積み重ねが、いつの日か大きな実りとなって喜びの収穫につながると確信します。

カトリック福岡教区司教
＋ドミニコ宮原良治

1月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般】若者と社会的コミュニケーションとメディア
【宣教】キリスト者の一致
【日本の教会】聖地の平和を祈る

教区信徒協役員会開催 75周年資料集完成

12月13日（日）教区信徒協が役員会を開催、各地区の取組や行事予定などが発表された。

特に、福岡、熊本で行われた司祭年を意識した集いは好評で、司祭と信徒の意思の疎通に役立つものだったと評価されていた。

また、待たれていた福岡教区75周年記念誌が諸事情で「資料集」として発行されたことが発表され、膨大な資料をまとめ労くださった歴代の担当者へ労いの言葉があった。各委員は、できたての資料集をめくりながら「やっとできた」「良くできてます」などの声があった。

長崎教会管区内外国人信徒セミナー

毎年開催している長崎教会管区外国人信徒セミナーが、カテドラル大名町教会で開催された。毎年、参加者が増える傾向にあるが、昨年熊本でのセミナーから日本人信徒への参加も呼びかけ、今年も北九州、福岡、久留米、熊本、日田、大分、長崎など350人が集まった。

その中で、小さい子どもたちの世話を福岡地区青年会と泰星高校の有志の生徒たちなど15人が担当し、70人の子どもたちとバスで大神学院の広い校庭に移動、1時間ほどの時間を過ごした。

今年のセミナーは午前に分かち合いを行い、午後は各地で準備した歌や踊りを披露して、みんなで多文化の教会の姿を実感することになった。

今年参加した外国籍の人たちの中にも生活環境が非常に厳しい人もかなり多く、分かち合いでも様々な苦しい経験が語られた。経済的なことだけではなく国際結婚の中で、日本人の家族との軋轢や信仰に対する無理解、故郷の国にいる家族との問題、子どもの信仰教育や学校の問題など多岐に亘り、日本での苦しい結婚生活から飛び出し九州まで逃げてきたという人もいた。

初めて参加した日本人信徒の人たちには、自分たちの教会に顔を出す外国籍の人たちに、複雑な問題があることを初めて知った人もいた。

近年、小教区の主日の日本語ミサに参加する外国人信徒の数が各地で増えているが、定住期間が長くなり、日本語の理解力が高くなったためということもあるようだ。

昨年の熊本でのセミナーに参加した人には、セミナー後に自分の教会に来る外国人の人たちのお世話を始めた人もいる。今回、福岡で開催されたセミナーが、これからの福岡教区の多文化共生に役に立てば良いと福岡教区の関係者は願っている。

最後は宮原司教司式で多言語による派遣ミサが行われた。ミサ後は全員で記念写真を撮り、来年の開催地鹿児島での再開を約束して各地に帰って行った。

カトリック学校の窓

幼児期は、人的・物的環境を吸収し成長・発達していく。人的環境においては、育てる人の心や魂までをも、まるで写真を撮る勢いで自分の心に写し取り、生命の一部としていく。

三つ児の魂百までと言いたいのですが、幼児教育界に科学が注入されるようになってからは、人は受精の瞬間から母親の胎内で意志を使い、記憶をもち、生命を育む存在である、即ち、胎教の重要性が説かれるようになった。

先日、幼稚園で誕生会が行われた。誕生月の子ども達の御両親がお祝いに来園下さる。そのお祝いの席に一人の園児の御祖父様がおられた。数日前、突然奥様が亡くなられたと聞いていた。終了後、御祖父様に小さな生花と共にお悔みを申し上げた。すると御祖父様は号泣されながらこう言われた。「孫のM子が『おじいちゃん泣かんでもいいよ。おばあちゃんは天国でちゃんと生きておられるとよ。いつも神様のところで私達を見てくれてるとよ』私は何とか生きていきます」と。

先の御祖父様、三村神父様…。子どもの存在を本気で信じ本気で関わっておられる。幼児教育の原点はこのことにこそあるのではないだろうか。自分自身の生き様がそのまま子どもに写り生命の一部としていく子どもの存在がある。

他人の喜びを自分の喜びと見分けがつかない位嬉しい、他人の苦しみが自分の苦しみと見分けがつかない程苦しい。そんな心の在り方に憧れ日々、幼児教育の道を歩いてきた。精神的に子ども達に倣って昇華したい昨今である。

鳥栖カトリック幼稚園
園長　坂田久美子

みちくさ

去年　今年　貫く棒のごときもの　新年あけましておめでとうございます。年が改まると、人は、今年こそは○○が出来るようにとか、今年こそは○○をやめることが出来るようになどと抱負や目標を立てる。しかし、数ヶ月もすれば、「来年こそは」と言って自らを慰めたり、言い訳をしている自分があることを考えると、人間そう簡単には、変えられないことも分かる。不屈の精神で自らの意志を貫徹する方々もおられよう。しかしながら凡人の小生には、なかなか難しい。さて、人間の身体は60兆ほどの細胞で構成されているというが、去年まで私のからだを構成していた細胞の多くは、新しい細胞へと移り変わっている。去年の自分と今年の自分はもう同じではないのである。では何が同じか。人格、人間性といった目に見えない部分は、変わらないと言えようか。しかし、全く同じでもない。昨日の考え方と今日の考え方は異なる。同じ人間性を具えた自分であるはずだが、明日はまた異なる自分を見ることがある。人間の中で、変わらないものと変わるものがある。否、変えてはならないものがある。「去年（こぞ）今年貫く棒のごときもの」と虚子が詠んだとき、彼の中には、周りがどう変わろうが、何と言おうが、年が改まろうがどうしようが、「貫く棒のごとき」ものがあったのである。それは、われわれにとってはゆらぐことのない信念、変わることのない信仰であろうか。新年に当たり、そのようなしなやかな信仰を求めたいものである。M

自由席

新しい風になりたい！

久保咲希子

〝アジアの青年たちよ、集い、みことばを分かち合い、エウカリストを生きよう〟のテーマのもと、11月20日～27日まで第5回アジアン・ユース・デイ（AYD）がフィリピンで開催されました。

アジア23カ国から1500人が集い、日本からは郡山司教様、司祭3名、青年11名が参加しました。期間の前半は各教区でホームステイをしながら過ごし、AYD本大会ではミサ、司教講演、ワークショップ、文化発表などを通して共に学び、祈りながら過ごしました。

AYDのテーマ聖句は5つのパン（ヨハネ6章11節）の箇所でしたが、AYDを終えて私は今、5千人の群衆と同様に、心身ともにとても満たされ、分かち合ったアジアの仲間と神様への感謝の気持ちでいっぱいです。ホームステイでは、温かい家族、小教区の人々に迎えて頂きました。フィリピンでは9月からクリスマスの準備を行うらしく、家族、地域全体でクリスマスの訪れを心待ちにする姿がとても印象的でした。また、家族で分かち合いを行った際に、涙を流しながら神様への気持ちを話し、家族全員がお互いの気持ちを受け止め、祈り合った時間がとても幸せでした。フィリピンの聖家族を感じることができました。AYD本大会では、文化、カトリックコミュニティの大小、社会状況・・・それぞれ異なるアジアの青年と、日々どんな悩みを抱え、どんなことを神様に願い、どんなミッションを感じ生きたいと思っているかを分かち合うことができたこと、また、共に分かち合い励ましあうアジアの仲間がたくさんできたことが本当にうれしいです。

AYD最後の夜にホスト教区のタグレ司教様が〝あなた方はAYDが終わるから帰るのではありません。これからの訪れる新しい季節を迎えるために、新しい風を持ち帰るために帰るのです。〟と言われた言葉がとても心に残っています。新しい風となれるよう、神様の呼びかけに耳を傾け、祈りながら私に与えられたミッションを強く生きていきたいと思います。アジアの仲間と共に祈りながら待つ今年のクリスマスはいつも以上に楽しみです！

祈り支えて下さったすべての方々、そして神様に心から感謝いたします。

大名町教会　青年信徒

同じ信仰を持つ者と神様によって繋がるよろこび

田上朝子

第5回アジアンユースデー（AYD）が11月20日から27日までフィリピンで開催され、1500名（日本から14人）が集いました。

今回のテーマ『アジアの青年たちよ、集い、みことばを分かち合い、エウカリストを生きよう』を深める多様なプログラムが用意され、アジアの信仰の仲間たちと出会い、神様への導きに対する感謝と賛美を捧げた日々でした。

様々な形でみことばに接する機会がありました。ホームステイ先でホストファミリーと聖書の分かち合い、ミサ、朝の祈り、ホスト教区であるイムス教区長のタグレ司教様のメッセージ等、聖書の豊かさを体感しました。

家族が集まり、聖書を読み、みことばを分かち合う雰囲気、生活にみことばが生きていることが印象に残っています。タグレ司教様のお話は、平易な言葉で心に深く響き、非常に感銘を受けました。

すべてのプログラムは英語で行われますが、伝えたい気持ちと理解しようとする気持ちとが通じ合うとき、たとえ言葉は拙くともコミュニケーションがスムーズに運ぶ体験は心強いものでした。アジアと一言でいっても、その範囲は広く、文化や情勢も様々です。けれども同じ信仰をもつ友達とは、様々な違いがあっても、神様によってつながり、一致している喜びをともにしています。それぞれの場所に帰った現在も、そしてこれからもその喜びが続くことを信じています。

集い、みことばを分かち合い、ミサに生きる―これはAYDに限らず、信徒としての日々の生活です。「皆さんはAYDが終わるから帰るのではありません。新しい季節を始めるために、新しい関わりを築くために帰るのです。家族と友人と周りの人々と。」待降節を控えたAYDの閉幕前夜のタグレ司教様の言葉です。AYDに参加するにあたって周りの方々の理解と祈りに支えていただきました。感謝の気持ちを行動でもって伝えていけたらと思います。

大名町教会　青年信徒

教会共同体を考える

イザヤ　来住　英俊

文書によるコミュニケーション⑨

現代の日本では、「話し言葉によるコミュニケーションこそ本物である」という意識が主流のように思われる。つまり、文書を出すのは単なる形式か、「対面を避けた逃げだ」くらいに思われているのではないか。しかし、文書によるコミュニケーションは重要である。

話し言葉で伝わるのは、発言の内容よりも、話し手のパーソナリティ、そして意気込みや熱意といったものである。だから、その主張（提案）が受け手の想定の範囲内で、大抵の人が賛成することであれば、話し言葉が優れている。文書をみっちり書く必要はない。しかし今の時代、教会内でも「皆が同意すること」ばかりは言っていられないはずである。「こういう〝理由〟で、こういう〝変革〟を主張する」というコミュニケーションがもっとあるべきである。その場合、話し言葉と平行して、しっかりした文書を書くことは必須である。話し言葉だけだと、好意的な聴き手でさえ、主張を取り違えるか、肝心の部分を聞き落としているということはごく普通に起こるのである。自分の説教についての信徒の感想を聞いた司祭は身に覚えがあるだろう。

私は教会内に、教会の課題と方向性に関して、論理だった意見を発表することのできる場がほしいと思っている。論説的な教会ミニコミが出せないかとも考えているが、とりあえずは教区報、小教区報がその場になってほしい。

一面は「信仰生活に関する随想」的な記事が多いように思うが、時には司祭や評議会議長の「小教区の進むべき方向」的な記事が載ってもいい。もちろん、「もっと信仰を深めよう」のレベルではなく、具体的な提案を含む論説である。レジュメではなく文章をしっかり書くことは、その人自身にとっても、考えを論理立てる助けになる。スピーチは、論理的な飛躍があっても通用してしまう。

御受難修道会
宗像修道院院長

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

教区長　宮原良治司教
福岡地区
教区本部　松井忠之
司教館付　山下正
　田川清美
　田中重治
　渡辺隆義
　竹内英次
　岩崎康彦
　中村信哉
　下町豊重
　オカロール
　浦川務
　三村邦明
　ジュード
　古川健一
　シアニ
　遠山満
　ドワイヤー
　リチャード
　櫻井尚明
　十時伸治
（助祭）大塚了平
　戸村悦夫
　片岡哲夫
　山田成章
　森山信三
　ミッシェル
　川上惣一
　畠山七郎
　硫黄隆二
　増井啓
　外川直見
　浦善孝
　メディナ
　泉類治
　サンスルピス司祭会
　牧山強美
　高木善行
　ベルナール
　湯淺俊治
　熊川幸徳
日本カトリック神学院福岡キャンパス　嘉松宏樹
聖パウロ修道会　中村吾郎
Br小川孝志
Br田中直
Br七種一一
御受難修道会　来住英俊
　鈴木忠一
　内山恵介
　ガブリエル
　染野治雄
　山頭原太郎
　サントス
美野島司牧センター　永富久雄
司祭の家
召命の家
　コース
　Br床嶋藤吾
臨床パストラルケア教育研修センター　キッペス
ヨゼフ会
北九州地区
　飯塚　堤敏雄
　小倉　平田敬
　新田原　杉原寛信
　直方・田川　寺浜亮司
　戸畑・天神町　中村彰
　水巻・黒崎　竹森勇
　門司　伊東成晃
　湯川　平田三好
　行橋　山元眞
　若松　鵜野泰年
パリ外国宣教会北九州支部　ベリオン　レヌー
佐賀地区
　伊万里　ガッザルディ
　唐津　スタン
　鹿島・武雄　マネルバ
　佐賀　深堀勝人
　多久　テムペリーニ
　鳥栖　マッケイ
　馬渡島　浦俊雄
　呼子　堤好治
　淳心会　スメット
熊本地区
　帯山　川添猛
　菊池　最頼巌流
　健軍　青木悟
　崎津・大江・本渡　牧山美好
　井手公平
　マルケット
　ダ　ロシャ
　島崎・玉名　ロペス
　ワユディ
　牧山勝美
　アルビン
　オファレル
　ホールガン
　レナト
　松井忠之
　真命山・霊性交流センター　ソットコルノラ
　ダニエーレ
　人吉　坂牧春妙
　水俣　深堀正平
　武蔵ヶ丘
　八代
　手取
　高宮
　茶山
　西新
　箱崎
　二日市
　本郷
　吉塚
　イエズス会
　笹丘
　浄水通
　大名町・光丘
　糸島
　今村
　大楠・老司
　大牟田・荒尾
　小郡
　久留米
　古賀

ちょっと一息

伊勢エビもいいけど無駄が多すぎる　坂牧春妙
老いに嬉し小春日和を着て歩く　深堀正平

『祈りの日』ご案内　毎週火曜日

祈りの日の一日
11：00　ミサ／12：00　昼食（粗食）／12：30　ロザリオ
13：00　十字架の道行き（毎月1回、来住神父の講話）
14：00　聖時間・教会の祈り／15：00　お茶　終了
参加費・お申込不要・昼食有り(粗食)
＊日常の慌しさから少し退いて、静かな祈りの時を！

PRAYER GROVE MUNAKATA
カトリック福岡黙想の家
カトリック御受難修道会・宗像修道院
811-4155　福岡県宗像市名残1056　Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
ＴＥＬ092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

司祭シリーズ⑧

「召命のよろこび」

寺浜亮司神父

教会内で子ども達と関わりを持つことは簡単に見えて、なかなか……。

「神父様、今日は子ども達と一緒ではないのですか？」「神父さんは教会で遊んでばかりに見えて、いったい何をしているんですか？」とよく聞かれます。

寺浜は毎日子どもの軍団を引き連れていると思われている方もいらっしゃるようですが、子ども達は毎日教会に来ているはずもない。しかし、寺浜＝（イコール）子ども達というイメージが当たり前になっています。

じゃあ子ども達と何をしているかというと、一番は絶対ミサです。ミサの中で特に典礼で彼らができる奉仕を、とにかく一つでも多くやってもらいます。イエス様のお手伝い、典礼奉仕です。結婚式やお葬式でも侍者を。時には年寄りや病気の方々の訪問も一緒に行くことがあります。私が何か教えなくても、そこに彼らはイエス様との関わりを見付けているのだと思います。そして彼らが奉仕をしてくれた後は必ず、お礼（遊び）をしています。一生懸命やってくれたからこそ、そして次にまたいろいろと奉仕をしてもらうためにもそれは必要だと思います。彼らが大人になったら「そういえばあんなことをしたな、こんなところに行ったな」と思い出してくれればと願っています。

福岡教区では、「誰か神父様になる人はいませんか？」といつも呼びかけられている。しかし「教会は好き、でも神父にはなりたくない」という声を嫌というほど聞きました。また「わたしはシスターより神父になりたい」という女の子の力強い意見も何人か聞きました。こればっかりは……。

最後に、彼らがイエス様との関わりと同じくらい大切にしていることは、友だちとの関わりのようです。大人の話を聞くだけでなく、自分達の関わりの中でも彼らは成長しています。だからこそ教会にそういう関わりの場があるようにと努めさせていただいております。

直方・田川教会主任司祭

聖書週間に雨宮神父の講演会

11月14日と15日の両日、教区聖書委員会主催で大名町教会と小倉教会において雨宮慧神父による聖書講演会が開催されました。演題は「聖書は人間探求の古典」であった。雨宮神父は、聖書のテキストを丁寧に解説しながら「聖書は、神の存在を証明しようとする書物ではなく、人間とは何かを探求している書物である。人間は人間を不完全な者として創ったが、それは人間が罪や弱さを通して神と対話するためであり、人間とは神を必要とする存在であることを伝えようとしている」と語った。

ある参加者は、「神は人を弱くはかなく造った、この弱さは神に出会うためである。人が本当に泣いた時はすでになぐさめを受けている。師の講義に大きな力を戴きました。神に出会ったことを確信し、安心感を感じます。」

またある参加者は「人間が欠けた存在として創造された理由が、わたしの中で回を追うごとに深まっていくことをうれしく思います。たとえ同じ話をされたとしても『またか』ではなく深化していくように思えるのはお話しくださる方の言葉が心の襞に触れ共感できるからでしょうか。今のわたしはそのような言葉・時間に餓えているので何よりのご馳走でした」と語った。

小倉教会での参加者は140人を超え、神父の深い講話に一同、みことばの深い森の中に入った1日であった。

「光あれ」で10人の洗礼式

12月10日、アルコール、薬物依存のリハビリ施設「光あれ」（旧MAC　大野城市乙金東一丁目）では、入所者10人が念願の洗礼を受けた。ミサ中説教をした鈴木忠一神父（御受難会）は、どんな人間の中にもどろどろとした、醜い、闇の部分がある。「にも関わらず」すべてをご存知の主に委ねて光の方を向いて歩もうと、入所者を励ました。

洗礼式では、数年間に渡って求道をしてきた入所者もおり、感激の洗礼式となった。

また、「ろうそくの授与」の場面では、先輩たちが編んだオリーブの冠が受洗者に被せられるという微笑ましい一幕もあった。「光あれ」では、毎月2回、聖書研究会が行われていて、断酒のプログラムとともに信仰の熱心な養成がなされている。

ジャン・ブルーニ神父（前光丘教会主任司祭）の後を受けて、森山信三神父が鈴木神父とともに現在このグループに関わっている。

福岡地区婦人会がボランティア勉強会

老人ホームなどで永年ボランティア活動を続けている福岡教区福岡地区婦人会が、11月26日（木）カテドラルで「高齢者とのコミュニケーション」をテーマに九大教授で臨床心理士の野島一彦氏を招いて勉強会を開催した。50人が実演で熱心な学びをした。

11月23日（月）、熊本地区信徒使徒職協議会（会長・吉田迪子）主催で「熊本地区司祭・修道者・信徒の集会」が健軍教会で行われ、「私があなた方を遣わしたのである」のテーマのもと、天草地区を含む熊本各地から295人が参加した。

「私があなた方を遣わした」

この集まりは、「司祭の年」にあたり宮原司教より「各地区で司祭年を考えるように」との指導を受け、熊本地区の司祭と信徒協との話し合いで司祭・修道者・信徒の相互の理解と協力を目指して行われたものである。

午前の部では、熊本地区長であり手取教会主任司祭の牧山勝美神父より「司祭の司牧職と信徒の共通祭司職」について講話があった。

まず初めに、キリスト者とは「あなたは神の子・キリストです」と宣言する者であるということ。教会はピラミット型ではなく、円をイメージすることが大切。イエスを中心にして、教皇・司教・司祭・修道者・信徒が集まっているということ。呼ばれていることにおいてはみな平等であるが、司祭には司祭の役割があり、信徒には信徒の役割があること、お互いに認め合い支え合うことが大切であることが具体的に語られた。

熊本カトリック女性の会の奉仕による昼食をはさんで、午後からは、崎津、大江、本渡教会の協働司祭である井手公平神父、大牟田・荒尾教会主任司祭の下町豊重神父、帯山教会主任司祭の川添猛神父がそれぞれ、司祭としての貴重な体験を証した。

その後、小グループに別れ、活発な分かち合いが持たれた。

参加者からは、「第二バチカン公会議からの教会の刷新を理解した」、「神父様方がユニークに100％ご自身を見せて下さったことに感動した。」等の感想があった。

近頃の若いモンは

―青年による青年事情通信―

ザアカイ

「人を招き、共に過ごす」あるいは「招きに応え、出かけていって、共に過ごす」青年活動の多くはこの繰り返しである。世界へ、隣の教会へ、友人のもとへ、世代を越えて、招き招かれ様々な人たちと出会ってきた。

そして私たち福岡教区の青年たちは来月2月20・21日、全国の青年達を福岡へと招く。その数150人。NWM（ネットワークミーティング）という情報交換を目的としたカトリック青年の大きな大会である。共に過ごしながら日本各地の青年たちの活動、そして生き方を分かち合う。そんな素晴らしさの一方で、青年の教会離れも現実である。子どもの時代が終わり、大人の信仰者としての在り方を見つけられないまま、社会で生きる大人の在り方に先に出会ってしまう。

それでも時折、もうひとつの生き方があったという思いが脳裏をかすめる。そんな青年の背中をほんの少し押してみてほしい、挨拶だけでもいいかもしれない。私たちも、私の心に訪れているイエスと一緒に声をかけていきたい。

徴税人だったザアカイは、イエスに「あなたの家に行こう」と声をかけられ、自宅にイエスを招く。心は喜びに弾み、彼は生き方から変えられた。今、福岡で元気に動く青年たちの多くが、そんなザアカイなのだ。

福岡地区青年会新聞部（NWMについてはHP〝耳すまな日々〟をご覧下さい）

BOOK 読みは専科

☆河の流れのように
遠藤順子　著

遠藤周作氏が亡くなって10年、著者は本書の中ではじめて「自分史」を語っている。改めて夫と過ごした日々に思いを馳せ山あり谷ありだった自らを振り返り、今の社会、教育いのちに対して母親のように厳しくまたやさしく思いをつづっている。

女子パウロ会発行
税込定価　1260円

◇　◇

☆バリアオーバー
コミュニケーション
堀越善晴　著

NHKラジオ第2放送の「視覚障害者のみなさまへ」で8年間にわたるトークの記録。障害者と健常者、今やバリアを超えて対等の立場でなされる時代となった。生涯の有無を超えた、人間としての良好なコミュニケーションを考えるヒントであふれる書。

サンパウロ社発行
税込定価　1575円

◇　◇

☆自由人イエス
もう一つのキリスト論
クリスチャン・デュコック著
竹下節子　訳

ナザレのイエスが、その生と死と復活によって私たちを自由に向って導いてくれる……。躍動的なキリスト論。

ドン・ボスコ社発行
税込定価　1890円

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市上白水 5-11-102　092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社　森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

本との出会い　人との出会い　神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日／AM 10時～PM 5時40分
日・祝日／AM 11時～PM 4時（水曜日定休日）
TEL 092(741)4588　FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

司祭召命の育成！

カトリック教会のカテキズム

日　時：2010年１月24日（日）15：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：櫻井尚明神父（大名町教会主任）
資　料：カトリック教会のカテキズム

2009年度北九州地区聖書講座

テーマ：いただきます～神のことばを食べる～
日　時：2010 年１月 24 日（日）14 時から
場　所：カトリック小倉教会
講　師：L．ベリオン神父（パリ外国宣教会）
参加費：無料
主　催：北九州地区信徒協・聖書部会

2010 年福岡地区聖書講座

テーマ：聖書とわたし　～生活の中でみことばを活かす
日　時：2010 年１月 17 日（日）　14：00 ～ 16：00
場　所：カテドラル大名町教会
講　師：森山　信三神父（西新教会）
参加費：500 円　旧新約聖書をご持参下さい。
主　催：福岡地区信徒使徒職協議会　聖書典礼部会

福岡地区信徒協 宣教社会部　講演会

テーマ：信仰と労働、そして社会
～女性の視点から～
講　師：栗田　隆子さん（フリーターズフリー、女性と貧困ネットワーク）
日　時：2010 年２月 28 日（日）14 時～ 17 時
場　所：カテドラル大名町教会
主　催：福岡地区信徒使徒職協議会　宣教社会部
協　賛：福岡地区青年会
問合せ：目良　豊　（090-6468-6844）
　　佐田　一兵 (090-7164-9114)

2010 年 キリスト教一致祈祷週間

1 月 18 日（月）～ 1 月 25 日（月）
テーマ
あなたがたはこれらのことの証人となる
（ルカ 24：48）
祈祷会
日　時：２０１０年１月 24 日（火）　19：00
場　所：カテドラル大名町教会
＊どなたでも自由に参加できます。

＝佐賀地区信徒研修会＝

「パウロが受けた福音から　パウロが告げた福音へ」

日時／１月 24 日（日）13 時～ 16 時
場所／佐賀カトリック幼稚園ホール
講師／鈴木信一神父
（聖パウロ修道会司祭）
主催／佐賀地区信徒使徒職協議会
＊他地区の方もご遠慮なくおいでください。

２０１０年　案内板　会合と催し　１月のこよみ

福岡黙想の家ご案内　１月

◇12月26日(土) ～ 1/4日(月)　長崎純心聖母会黙想
◇５日(火) ～９日(土)　休館
◇12日(火) ～ 21日(木)　長崎純心聖母会・修練院黙想会
◇16日(土)　福岡チェナクルム
◇23日(土)　聖歌練習(新垣壬敏先生)
＊修道院の聖務日課に、みな様をお招きしています。ご一緒に、祈りの時を過ごしませんか！どうぞいらしてください。
〒811-4155　福岡県宗像市名残1056
☎0940・32・3222　FAX32・3385
http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~fmokuso/index.htm

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：教父に祈りを学ぶ
・日　時：１月14日(木) 10時～ 14時半
・内　容：ローマの聖クレメンス
・指導者：フランコ神父
指　導：フランコ・ソットコルノラ神父(真命山院長)
ダニエレ サルツィ・サルトリ神父
Sr. マリア デ・ジョルジ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎0968・85・3100 FAX0968・85・3186 ・玉名郡和水町蜻浦1391-7・E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp
＊個人またはグループでの黙想や研修会も歓迎。(要予約)

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：１月16日、２月６日　第１・第３土曜日 10 時～ 12 時
場所：カトリック大名町教会小聖堂
＊基本的に第１･第３土曜日。変更の場合もあります。

１日(金)	神の母聖マリア／世界平和の日	
	新年のミサ（カテドラル10:00）	
	✝C．バスチ〔2002年黒崎教会〕	元旦
３日(日)	主の公現	
７日(木)	**カトリック中央協議会予算委員会**	
10日(日)	主の洗礼	
11日(月)	成人の日	
14日(木)	召命祈願ミサ（神学院19:30）	
	常任司教委員会	
17日(日)	年間第２主日／**今村教会堅信式**	
18日(月)	**米国修道者面談**	
24日(日)	年間第３主日／**大名町教会堅信式**	
	キリスト教一致祈祷集会（カテドラル19時）	
25日(月)	聖パウロの回心	
	司祭総会（～26日）	
27日(水)	✝R.オーウェンス〔2007年菊池教会〕	
30日(土)	福者小笠原玄也一家殉教記念（1636年）	
31日(日)	年間第４主日／カトリック児童福祉の日（献金）	
	天神町教会訪問／✝V.マクナリー〔2003年島崎教会〕	
２月		
２日(火)	主の奉献／✝マテオ山川辰幸〔2002年二日市教会〕	
３日(水)	**教会行政法制委員会**	
４日(木)	**常任司教委員会／日本カトリック神学院常任委員会**	
５日(金)	日本２６聖人殉教者／**初金曜日ミサ（浄水通教会10時）**	
	路上生活者への炊き出し（毎金曜日大名町教会）	
７日(日)	年間第５主日	
	美野島司牧センター創立15周年ミサ聖祭	
11日(木)	ルルドの聖母／世界病者の日	建国記念日

＊ゴチックは、司教日程
＊司祭の命日は2000年以降からお載せしています。

2010 年福岡教区行事予定

◇１月 12 日（火）
司祭新年の集い（カテドラル 11 時）
◇１月 26 日（月）・27 日（火）
司祭総会
◇２月９日（火）
司祭評議会
◇３月 30 日（火）
聖香油ミサ（カテドラル 15 時）
◇３月 31 日（水）
教区宗教法人立幼稚園新任教職員辞令交付式ならびに研修会
◇４月 26 日（月）～ 27 日（火）
邦人司祭の集会
◇５月 11 日（火）
司祭評議会
◇６月 11 日（金）
司祭年閉幕
◇６月 22 日（火）～ 24 日（木）
教区内全司祭研修会
◇８月５日（木）
宮原司教霊名のお祝い
◇８月 15 日（日）
教区和田墓地司教ミサ
◇ 11 月 14 日（日）
教区北九州墓地司教ミサ
◇９月 14 日（火）
司祭評議会
◇９月 14 日（火）
司祭評議会
◇ 10 月 11 日（月）～ 15 日（金）
教区邦人司祭黙想会
◇ 11 月９日（火）
司祭評議会
◇ 11 月 29 日（月）～ 30 日（火）
邦人司祭の集会
＊小教区行事と教区行事とが重ならないよう出来るだけのご配慮をお願いします。

◆福岡

■聖霊による刷新福岡祈りの集い〔日時〕毎週月曜 11 時から 12 時 30 分〔場所〕大名町教会１階〔内容〕賛美と感謝の祈り・聖書の分かちあい〔代表〕Br 床嶋〔問合せ〕☎092・521・2503 蓮尾

■召命祈願ミサ〔日時〕１月 14 日（木）19 時 30 分から〔場所〕日本カトリック神学院福岡キャンパス聖堂

■福岡結婚準備講座〔日時〕１月 16 日（土）から２月 13 日（土）18 時半から 21 時迄の全５回〔場所〕カトリック大名町教会〔参加費〕カップルで一万円〔問合せ先〕☎092・741・3687 ＊原則、お二人での参加が必要です。ご相談ください。

■在世フランシスコ会集会〔日時〕１月 17 日（日）14 時から〔場所〕高宮フランシスコ会修道院在世会集会所〔内容〕アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習〔指導〕戸村悦夫神父〔問合せ先〕☎092・843・5831 岩崎

■虹の会〔日時〕１月 23 日（土）13 時半から 16 時半〔場所〕カトリック大名町教会３階〔内容〕子どもを亡くした親の悲嘆の分ち合い〔参加費〕600 円〔連絡先〕☎090・1162・6395 柴田須磨子

■グレゴリオ聖歌を歌う会〔日時〕１月 26 日（火）11 時から〔場所〕聖クララ寮（南区塩原）〔内容〕聖体賛歌〔問合せ先〕☎096・380・5686 堺敬子

■第８回信徒の霊性と召命を考える集い〔日時〕１月 31 日（日）12 時から 17 時〔場所〕サンパウロ福岡宣教センター〔内容〕「信仰を生きる」ミニ黙想会〔対象〕40 歳位までの独身女性〔主催〕川島キヨ子（使徒職の協力者）〔参加費〕800 円〔申込先〕☎092・715・3606 鈴木

■美野島司牧センター　ホームレス支援のための毎週火曜日 10 時半から炊き出し等へのご協力をお願いします。〔問合せ先〕☎092・431・1419 M・コース神父

◆北九州

■小倉祈りの集い〔日時〕１月 22 日（金）13 時半から 15 時〔場所〕カトリック小倉教会信徒会館２階〔指導〕ガブリエル神父（御受難修道会）〔内容〕『みことばを味わう』賛美と感謝の祈り〔連絡先〕☎090・3985・5209 松田裕子

■北九州召命を共に祈る会〔日時〕１月 14 日（木）14 時から 17 時〔場所〕カトリック小倉教会聖堂〔内容〕新年のごミサ、ミーティング〔司式・指導〕伊東成晃神父（門司教会主任）〔問合せ先〕☎093・963・2359 江口

◆佐賀

■佐賀祈りの集い〔日時〕１月 16 日（土）10 時～ 12 時〔場所〕佐賀カトリック会館〔内容〕ミサと祈り毎月第１土曜日。〔問合せ先〕☎0952・30・8347 吉武

福岡教区広報室アドレス
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

◆熊本

■熊本地区召命を共に祈る会〔日時〕１月 21 日（木）11 時〔場所〕カトリック健軍教会〔内容〕ロザリオと話し合い〔問合せ先〕健軍教会☎096・368・2825 青木悟神父

■熊本結婚準備講座〔日時〕１月 23 日（土）から２月 20 日（土）19 時から 21 時半毎週土曜日の全５回〔場所〕カトリック手取教会〔参加費〕カップルで一万円〔問合せ先〕☎096・352・3030 渥096・352・1515

■カトリック看護協会福岡支部の集まり〔日時〕１月 10 日（日）14 時半〔場所〕イエズスの聖心病院〔問合せ先〕☎096・352・7181 Sr 竹内

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

「最近教区報はカラーが多いですね」と言われます。これは何も編集長の気まぐれではなく、クリスマスや復活祭、また大きな教区行事が行われたときなど、少しでも手にとって楽しくなるようなものにしたいと思っているからです。また、写真もカラーであればより一層映えます。そしてこのためには教区会計の寛大なるご理解とご承認あってのことと感謝しています。皆様、今年も楽しく有意義な紙面づくりに励みますので、原稿、写真どしどしお寄せください。

また、ボランティアの信徒の方が毎月８人ほど司教館で梱包・発送の作業をしてくださっています。この方々の隠れたお働きで皆様のところに教区報が届けられます。この１年もこの方々に支えられてお届けいたします。今年もよろしくお願い致します。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224　三井郡大刀洗町鵜木67－３
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ　平田　清

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院
地域医療支援病院
救命救急センター
総合周産期医療センター
がん診療連携拠点病院
地域災害拠点病院
＊入院基本料（一般病棟7:1）
一緒に働きませんか？
＝募集＝
医師・看護師・医療技術職
〒830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

天然素材の
健康住宅
大地・海・山の恵みを取り入れ優れた素材をそのままディスカウントした住まいづくり
有限会社 ナガシマ建築工房
社長　ヨゼフ　長島哲夫
福岡市早良区飯倉8-10-17　TEL：092-871-0063
ナガシマ建築工房　福岡　検索

サンパウロ福岡宣教センター
司祭職とはイエスのみ心の愛

〔09～10年6月 司祭年、特設コーナーあり〕
1階 聖書・信心書・聖人伝・キリシタン関係・絵本・一般書等
2階 家庭祭壇・十字架・ロザリオ・ご像・ご絵・CD・DVD等
営業=10:00～18:00/四旬節中の日曜日＊定休日=日曜日・祭日＊駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26　TEL 092-721-2032